食の感動で、この星を満たせ。

TORIDOLL→

News Release

2026 年 10 月 27 日

「第 6 回トリドール持続可能ビジネスコンテスト」最終選考会出場の 5 大学が決定

－12 月 4 日（金）にトリドール HD 本社で最終選考会を開催－

「心的資本経営」を原動力に、世界中へ食の感動体験を提供する株式会社トリドールホールディングス（東京都渋谷区、代表取締役社長 兼 CEO 粟田 貴也、以下、トリドール HD）は、次世代を担う全国の大学生・大学院生を対象とした「持続可能ビジネスコンテスト」を継続して開催しています。

今年で 6 回目となる本コンテストには、過去最多となる 28 大学 57 チームのエントリーがありました。厳正な書類審査による予選の結果、駒澤大学（東京都）、順天堂大学（東京都）、専修大学（神奈川県）、中村学園大学（福岡県）、横浜国立大学（神奈川県）より 5 チームのファイナリストが決定いたしました。

「第 5 回トリドール持続可能ビジネスコンテスト」での集合写真

予選を通過した 5 チームは、2026 年 12 月 4 日（金）にトリドール HD 本社で開催される最終選考会に出場いただきます。当社グループのビジネス上で、収益性を維持しながら社会課題の解決を図る「持続可能なビジネスプラン」をトリドールグループの経営層に直接プレゼンテーションいただきます。

本コンテストで優勝した大学には特典として、トリドールグループの各店で使えるお食事券のほか、表彰楯を贈呈させていただきます。なお、最終選考会に進んだ

5 大学 5 チームには、最終選考会出場特典として「新卒採用最終面接参加権※1」を授与させていただきます。

※1：2 年生の場合は翌年も権利保持可能です。本特典は、新卒採用における選考機会の提供を目的としたものであり、内定を保証するものではありません。当社が定める通常の選考基準に基づき、評価・判断を行います。また、当社の採用方針や事業環境等により、新卒採用の内容が変更、または実施されない場合があります。

■イベント概要

・名称

第 6 回トリドール持続可能ビジネスコンテスト

・日時

2026 年 12 月 4 日（金）13：00～15：30

・会場

トリドールホールディングス本社

（東京都渋谷区道玄坂 1-21-1 渋谷ソラスタ 19 階）

TORIDOLL→
SUSTAINABLE BUSINESS
CONTEST 2026

・最終選考出場大学

駒澤大学（東京都）、順天堂大学（東京都）、専修大学（神奈川県）、中村学園大学（福岡県）、横浜国立大学（神奈川県）※五十音順

・審査員

※状況により審査員が変更になる場合があります。

・評価軸：①革新性/独自性　②収益性 ③実現可能性 ④当社理念への親和性
⑤社会インパクト（社会貢献度） ⑥プレゼン力

■トリドール持続可能ビジネスコンテスト特設ページ

https://www.toridoll.com/sustainability/social/contest/

■トリドール持続可能ビジネスコンテストとは

本コンテストでは、現役大学院生・大学生の方々にトリドールグループの事業内容をベースとして「持続可能なビジネスプラン」を企画いただき、代表取締役社長 兼 CEO の粟田を含む当社グループ経営層に直接プレゼンテーションいただきます。

＜参加メリット＞

・社長や役員などの経営層へ、自らの提案を直接届けることができます。また、提案内容に対する直接的なフィードバックを受けることができます。

・最終選考会進出チームは、当社事務局がサポートの上、持続可能なビジネスプランの企画・プレゼン資料作成・プレゼン練習などを経験できます。

・高評価のビジネスプランは、実現に向け取り組めるチャンスも。

　トリドール HD は今後も本活動を継続し、既存の提携大学とのパートナーシップを一層深化させるとともに、新たな大学との連携ネットワークを積極的に拡大することで、日本の未来を担っていく大学生・大学院生の皆さんに社会課題の解決と経済性を両立させるビジネスを考える機会と、企業の経営層に対して提案する機会を提供してまいります。

トリドールホールディングスについて

「食の感動で、この星を満たせ。」をスローガンに掲げ、さまざまな業態の飲食チェーンを展開し、味覚だけでなく五感が揺さぶられる、本能が歓ぶほどの感動を探求し続けています。

トリドールグループは「心的資本経営」を原動力に、従業員の“心の幸せ”とお客さまの“心の感動”を生み出し、持続的な事業成長を目指しています。

今後も「食の感動体験」をどこまでも追求し、世界中で唯一無二の日本発グローバルフードカンパニーを目指して、予測不能な進化を遂げるため、国内のみならず海外での展開を積極的に推進してまいります。

―――